

仲良くお仕事を

私の亡き母は、生前に「骨肉腫」という珍しい病気を患い一年近く大学病院の外科病棟に入院していました。結局それが原因で左足全体を切断し数か月後に亡くなりました。平成 12



年のことです。入院中、母には何度も危険な状態が訪れました。その度に私は病室の消灯後に病棟廊下のソファで夜を明かすこととなります。夜中でも明かりがついている医局の前のソファです。こんな夜が数日続きます。

いつもこのソファで深夜を過ごしているのは私一人ではありません。スーツ姿の若い人が座っています。時には3名、時々若い女性の時もありました。患者の家族ではなさそうです。後で看護師さんに聞いたのですが製薬会社のセールスの人たちだそうです。大学の薬学部を卒業しても全員が薬剤師や新薬の開発等の職につくことはできないそうです。担当の先生方が携わる手術終了や、その他の会合等の都合で医局に戻るのが遅れると、こうして深夜まで廊下で待っているのだそうです。失礼ながら、だれもない医局を廊下の窓から覗き見してみると、黒板の予定表には「〇〇製薬ボーリング大会」、「ゴルフ…」とあります。大学病院で薬を使って貰うのは社運がかかっているのだと彼らの姿が物語っていましたし、薬剤師さんは

世の中で余っているのでしょうか。

先日のニュースで妊婦さんが風邪などで医師の診察を受けた時に、私達より余分に診察料を支払っていたことを初めて知りました。去年の春からです。これでは益々日本の少子化は進むのではないかと憤りを感じます。テレビでのニュース解説では、この制度を設けた理由の一つに、産婦人科以外の先生が妊婦さんに処方する薬の知識がなく、胎児に対する後遺症等の不安から診察自体を拒否することが多く、それを防ぐために設けられたそうです。でもそれが本当だとしたら、追加料金さえ払えば診察してくださる医師などは、こちらから御免こうむりたいと思うのは私だけでしょうか。

現在、私も血圧の薬を服用しています。診察後会計を済ませ、先生の出した処方箋を持って薬局へと向かいます。提出してあつと言う間に薬が出てきます。前回私のGショックで測ったら1分27秒でした。だって先生の記入通りの薬を日にち分袋に入れるだけですから。ちなみにその一連の作業の様子を観察すると、コンビニのレジの人の仕事の方がずっと多種複雑で難しいとさえ思いますし、機械化も可能ではないでしょうか。むろん薬の説明や注意点は丁寧にしてくださいませ。でも素人目の私が見る限り、せつかく高額な授業料を払い苦勞して勉強しても、悲し過ぎるのが今の日本の薬剤師さんでしょう。医師と薬剤師との上下関係の差が大き過ぎると思います。お医者さん、妊婦さんへの薬の知識が無いと言わず、仲良く薬剤師さんと協力して仕事してくだされ。 俊徳丸